

カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画 ワーキンググループの進め方について

2021年9月

国土交通省 関東地方整備局

鹿島港湾・空港整備事務所

検討枠組み・全体スケジュール（おさらい）

①いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会

※公開

【設置要項(概要)】

- 茨城県が温室効果ガスの大幅削減、新エネルギーや再生可能エネルギー等を活用し産業競争力・立地競争力の強化を実現していくために必要な、官民学の連携を図るため、「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会」を設置する。
- 会長(茨城県知事)が認めるときは、ワーキンググループを設置することができる。

②茨城港CNP形成計画作成WG / 鹿島港CNP形成計画作成WG

※非公開

【規約(概要)】

- 茨城港／鹿島港において、水素・アンモニア等の次世代エネルギー利活用の需要と供給体制を一体的に創出するとともに、港湾機能の高度化や臨海部における環境に配慮した産業の集積を図る「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成に向け、次世代エネルギーの需要、利活用方策、導入上の課題等について、関係者による検討を行う。



茨城港/鹿島港CNP検討WGの進め方

	第1回 (8/3(火))	第2回 (9/3(金))	第3回 (9/29(水))
1. 目標・成果	<ul style="list-style-type: none"> ①CNP形成計画の内容・意義の説明 ②現状のCO2排出量の推計 ③各企業、自治体等から将来計画や要望について聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ①CO2排出量の推計(目標値設定) ②水素・アンモニアの需要推計 ③必要な施設規模の算定 ④茨城港/鹿島港におけるCNP形成イメージ案の提示 	<p>○CNP形成計画(原案)をとりまとめ</p> <p>○柱として</p> <ul style="list-style-type: none"> -CO2排出量 -水素・アンモニア需要量 -2050年CNP形成イメージ案 <p>⇒<u>年度末までに具体的な取組</u>を関係者と検討。</p>
2. CNP形成計画			
(1) CO2排出量・削減量	・ターミナル内/ターミナル外のCO2排出量の推計(暫定値として提示)	・CO2排出量の推計(暫定値として公表)	
(2) 水素・アンモニアの需要推計	・水素・アンモニアの需要の一部試算(石炭火力など一部の項目について、様々な仮定を置いた上での試算値を提示)	・水素・アンモニアの需要推計(暫定値として公表)	
(3) 必要となる施設規模の検討	－ (必要となる施設の例示、他港の検討事例を紹介)	・上記の需要推計を基に、必要となる施設規模を算定	
(4) 将来のCNP形成イメージ、目指すべき姿	・各企業、自治体等からカーボンニュートラルの取組状況の説明頂くとともに、その実現に向けた課題等について聴取	・茨城港/鹿島港における将来(2050年)のCNP形成イメージ案の提示	
(5) 具体の取組例(いつ・誰が・どこで・何を)	－ (今後、具体の取組例を検討していく旨を説明)		<p>・具体の取組例(いつ・誰が・どこで・何を)を提示。</p> <p>(なお、企業側の都合で公表できないものについては、概要のみ記載or全く記載しない等の選別あり。)</p> <p>※次年度以降も、企業の脱炭素化の取組の進展やCNP形成マニュアルに基づいて、CNP形成計画案の更新を行う。</p>

第1回WGにおける主なご意見等

第1回 茨城港・鹿島港CNP形成計画WG

開催日：令和3年8月3日(火)16:00～17:00

場所：Web会議

第1回協議会およびWGの主なご意見・ご発言

- ・工場での生産・物流のバリューチェーン全体でのCO2削減、工場稼働の化石燃料からの次世代エネルギーへの転換が重要。
- ・水素・燃料アンモニア等の次世代エネルギーの利活用のため、サプライチェーンの構築、既存インフラの活用が重要。
- ・茨城県の電力インフラは大きなポテンシャルがあると考えられるため、これを活用した取組の検討が望ましい。
- ・製鉄の過程で発生するCO2削減のため水素還元プロセスやCO2を資源に変えるCCUSの超革新技術の開発が待たれる。
- ・将来的には既存インフラを活用したメタネーションが有効な選択肢の一つ。
- ・再生可能エネルギーとして洋上風力発電における浮体式設備の実用化、海象に左右されない工事やメンテナンス技術の研究開発に期待。

○CNP形成に向けた検討の視点(案)

- ・臨海部の産業活動や港湾、船舶、倉庫等の運輸活動におけるエネルギー転換を通じた次世代エネルギーの需要拡大をどのように進めていくべきか。
- ・次世代エネルギーの普及に向け、サプライチェーンの構築をどのように進めていくべきか。
- ・臨海部の産業活動や運輸活動におけるエネルギー利用の効率化をどのように進めていくべきか。